平成 26 年度事務事業評価シート

第２号様式

１．評価対象事務事業

		シート作成日	平成26年7月23日
事業名	学校プール管理運営事業	担当課・係名	学校教育課・教育総務係
総合計画実施計画事業（認定番号・事業名）	―	事 業 番 号	18
行革大綱実施計画事業（細目コード・事業名）	―	事業開始年度	H24

２．事業の概要

目的（何のために）	学校プールを適切に管理し、児童・生徒の体力の増進を図る。
対象（誰を・何を）	小学校児童、中学校生徒。
内容	学校プールの保守管理等、維持管理。
根拠法令・条例等	
執行体制	□ 町職員実施　■ 一部委託あり　□ 全部委託　□ その他

		単位	平成24年度（決算）	平成25年度（決算見込）	平成26年度（予算）
事業費	直接事業費 (a)	千円	691	676	724
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	691	676	724
	職員人数（概算職員数）	人		0.04	0.04
	人 件 費 計 (b)	千円		245	245
	総事業費 (a)+(b)	千円	691	921	969

事業費内訳 H 26 年度	消耗品費150　光熱水費300　手数料 100　ろ過装置点検委託料 87 清掃業務委託料 87

３．指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標（指 標 名）			単位	平成24年度（実績値）	平成25年度（実績値）	平成26年度（見込み又は計画値）
対象指標（対象者数等）	①	児童・生徒数	人	1,084	1,069	1,084
	②					
活動指標（活動量）	①					
	②					
成果指標（達成度等）	①	一人当たりの事業費	円	637	632	894
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	学校のプール授業として利用
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	学校のプール授業として利用
成果	・意図した成果が得られているか。		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	学校のプール授業として利用
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	最小限の経費で実施している。
	・コストの削減等を図ったか		■ 図った　□ 図られていない　□ 図る余地は無い　□ その他
		理由	H24年度より事業を開始し、継続して光熱水費等で節水などの適正な使用を行っている。

担当課による評価	■ A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある □ B 事業の一部見直しが必要 □ C 事業の抜本的な見直しが必要 □ D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	評価理由 生沢プールの廃止による国府小中学校のプール授業の非効率化の改善を図ることができた。

5.改革・改善の方向性　（平成　27　年度以降）

①　改革・改善への取り組み
なし
②　平成27年度に着手する事項
なし
③　その他（課題、調整事項等）
なし

6．外部評価結果

評価結果	□ A 現状どおり事業を進めることが適当（適当） □ B 事業の進め方を改善し事業を継続（改善・継続） ■ C 事業規模・内容・事業主体の見直し（抜本的見直し） □ D 事業の休・廃止を検討（休・廃止）

【評価コメント】
将来に向け、スポーツ・健康・生涯学習など多くの利用が促進されるよう、広報・告知の仕方なども含め行っていくとともに、現状の管理体制は管理責任の観点からも、事業の継続を前提に抜本的な見直しを図る必要がある。

※この事業は「学校施設・設備維持事業（小・中学校）」「学校施設等開放事業」「学校プール開放事業」と一括して審議しました。